

# 第62回仏教保育大学講座

## 開催報告

保育連盟研修委員会（仏教保育大学講座指導員）



開講式（東本願寺御影堂）

2018年8月1日（水）より4日（土）までの3泊4日、気温が40℃近くになる猛暑の京都にて、「第62回仏教保育大学講座」が開催されました。

本講座は、真宗大谷派・真宗高田派・真宗佛光寺派・真宗興正派・真宗出雲路派・浄土真宗本願寺派の真宗6派に属する保育園・幼稚園・認定こども園の保育者を対象とした講座であり、今年度は全国より99名の保育者が参加されました。

真宗大谷派の御影堂で、張り詰めた空気の中、開講式が行われました。その中で大谷派指導員の古賀成磨先生による「講座開設のねがい」の朗読を聞き、指導員・受講生一同、本講座の意義を改めて確認し、会場をホテル洛兆に移して、いよいよ講座が始まりました。

## 1日目

主会場の洛兆に移動後、オリエンテーションに引き続き、大谷派指導員の脇淵徹映先生より、「講座開設の願い」と題して基調講義が行われました。

その後、各班に分かれての班別座談会①となり、自己紹介や役割決め・プレゼント交換等を通して少しずつ緊張をほぐし、日頃の保育の中での悩みや課題等を出し合いました。夕事勤行・夕食の後、班別座談会②に移り、座談会①に引き続き、日頃の悩みや課題を自分の言葉で語り、他の人の思いを聞く中で、忙しさの中で見失っていた自分の姿に気づいていくという「まことの保育」独特の「追跡学習方式」による研修が始まりました。

## 2日目

2日目は西本願寺の晨朝参拝から始まり、



講義 四循亮先生

バスで大谷大学に移動した後、ご講師である真宗大谷派不遠寺住職・真宗大谷派青少年センター研究員の四衢亮先生よつしやうより講義をいただきます。「仏教―出会いに開く教え」という課題のもと、講義①ではレオ・レオーニの絵本「ペツエティーノ」や、相田みつをさんの詩「点数」を通して、「自分が自分であつていい」という存在感覚についてお話しいただきました。その後、班別討議①を行い、講義①の内容や自らの課題等について話し合いました。

午後は浄土真宗本願寺派総合研究所の野村佳代先生による仏教讃歌の讃歌指導の講義を受け、さまざまな仏教讃歌を練習するとともに、心も身体もリフレッシュしました。その後、班別討議②を行い、午前中の課題をさらに掘り下げつつ、その課題を実際の保育の現場に照らし合わせることで、一人の課題を班



讃歌指導 野村佳代先生



班別討議の様子

員全体の課題として共有するような時間へと展開されていきました。

夕方、ホテル洛兆に戻って夕食をいただいた後、各班が指定された「お題」をパントマイムで表現し、他の班が正解を当て合う「夜のつどい」が行われました。「お題」の指定から実際の発表まで時間が少ない中、それぞれの班より工夫を凝らしたパントマイムが披露され、また正解を導き出すために班員が丸となって相談する姿が見受けられました。その他、園で行っている手遊びを紹介する時

間もあり、班の垣根を超えて大いに楽しみ、交流・親睦を深めました。

### 3日目

3日目の朝は東本願寺の晨朝参拝から始まりました。2日間の疲れが出ていると思いきや、受講生は時間を守り笑顔で集合。参拝後はそのままバスに乗り込み、大谷大学へと移動し、大学内食堂にて朝食をいただきました。久しぶりのパン食ということもあり、受講生も喜んでいる様子でした。また、受講生同士の緊張もほとんどなくなり、会話も弾み打ち解けている印象でした。何気ない朝のひと時ですが、本講座の「講座開設のねがい」にある「朋と語り合う」という意味を感じることができたように思いました。

講座②では、2日目に引き続き、四衢先生の講義を受講しました。「光の教え―親鸞聖人のたしかめ」という講義内容であり、私たちは光があらなければ自分自身や、自分の中にある闇にも気づき難いという先生の投げかけから、光の教えとは何なのかを考えるきっかけとなりました。次に、絵本「大きな木」を題材に、人間の持つ「欲」についてお話をいただきました。



全体討議の様子

続く班別討議③では、講義②で受けた内容を軸に仲間と語り合いました。ここでいう「光」とは、人との出会いや、その出会いの中で出会った言葉や気づきが自分を照らす光であるという意見や、自分の存在に気づくことができるのは相手の存在があるからこそ、生きる中で人や物、体験や言葉との出会いが自分を作りあげている等の意見が飛び交いました。

昼食の後の全体会では、初日から今までの振り返りということで、各班が話し合った内

容や、その中で疑問に思ったこと、また、別の班や四衢先生、指導員へ聞いてみたいこと等の意見を出し合いました。

班別討議・全体会ともに話し合いが白熱した1日となりました。各班、大きな疑問が出たり、答えが出そうで出てこない状態に頭を抱えたりと、それぞれの班で葛藤が見受けられ、翌日の全体討議へ向けて考えを深めていくことができたように思いました。

洛兆に戻り、夕食のすき焼きを、仲を深め合った班員と指導員とで楽しくいただきました。日程も残すところあと1日となり、寂しさ、あと少しで終わる気持ちを胸に就寝となりました。

### 4日目

4日目は興正派の晨朝に参拝し、9時から全体討議では、本講座を通して各班で話し合ってきた内容を発表しました。

四衢先生の講義を受け、「ありのままを無条件で受け入れるとはどういうことか」「自分は子どもたちをありのまま受け入れているのか」「認めるとは？」という疑問や、「自分の都合で子どもたちをほめたり、しかったりして、自己中心の保育をしていないか」等、



閉講式 修了証授与

発表内容から、どの班も自己の保育を見つめる話し合いがされていたことがわかりました。また、全体で討議することで、各班の課題がつながり、より学びが深まったように感じました。

四衢先生が講義で話された「ある」「する」というお話から、無条件に「いま・ここに・安心して・安定的に・自分が自分である」ということ、「まず「ある」があつて「する」があるとはどういうことか」等、「ある」と「する」の関係性について意見が多く出されました。

た。また、「光とは？」というテーマに対し、「光によって闇が照らされ、自分自身の姿に気づいていく」という発表もありました。

「ある」を無条件に受け入れられない自己中心の私であることの気づき、「する」が先行し、できる・できないで評価してしまっている私であることの気づき等、深く自己を省みる時間となりました。

最後に、閉講式と修了証の授与が行われ、受講生を代表して光應寺保育園の湯浅千絵先生より謝辞を頂戴しました。さまざまなお話を学び、気づききっかけとなったというお言葉からは、本講座の意義を改めて実感することができました。

#### 〈受講生代表謝辞〉

4日間の研修に参加し、たくさんのお話を知ることができ、「ある」と「する」とはということ等、深く考える機会をいただきました。

そんな中、班別討議で考えに詰まりわからなくなったとき、指導員の先生からある言葉をいただきました。それは『相手はきつと〇〇考えているだろうけど…』という前提は考えなくていいんだよ。今の自分のありのま

まを言えばいいんだよ』という言葉でした。

私はその言葉を聞き、気持ちに楽になり、班の方とも保育者というを超えて自分の悩みや考えを打ち明けられるようになりました。こうしてさまざまな講義や班別討議を通して、他の方の考えや仏様の教えに出遇うことができ、今迷っている自分から目をそらしているということに気づくことができました。

私たち保育者は日々の忙しさに加え、時代の変化に伴い保護者への対応の難しさ、求められることの大きさの重圧に押しつぶされようになり、子ども一人ひとりを受け止めることを忘れてしまうことがよくあります。そんな時は一度立ち止まり、今回学んだ「今を生きるということ」「自分を問い直すことの大切さ」を思い出して日々過ごしていきたいと思えます。

このような大事なご縁をくださった親鸞聖人の教えはもとより、仏教保育大学講座の開催を全力でサポートしてくださった指導員の方々、真宗に携わられているの方々、ここホテル洛兆の方々に心よりお礼申しあげます。本当にありがとうございます。

受講生代表 光應寺保育園 湯浅千絵